FAXニュース
ŌMIYA
JR東労組大宮地本
2020年3月10日
No. 140

大地申第14号 「派出検査体制の見直し」に関する申し入れ団体交渉開催！その2

３．東北本線・両毛線・水戸線における今後の対応についての考え方を明らかにすること。

◆会社回答： 引き続き関係箇所及び周辺支社にて対応することになる。

組合：交直の５３１系も入ってきている。小山車両センターでは応急処置できる人が少ない。持ち区で初動対応ということでよいか。

会社：水戸線に関しては持ち区で初動対応し、小山車両センターがあとから駆けつけて連携するというのは変わらない。

組合：本線対応のところ品管や技管室の方は勝田で現車を見てきている。実際本線で対応するのは機動班。現場の人は交直の車を知らない。屋根裏、床下に何がついているか知らない人がほとんどというのが現状。全体的に教育を受けられる体制作ってほしい。

会社：初動対応、交直に関わるところ。交直に関してそこまではわからないとなれば配置箇所、水戸支社と連絡とるなどの対応。それでも対応できなければ配置箇所に現地に来てもらって対応。今までと変わらない。

組合：連携明確にしてほしい。１４日以降、発生した場合の初動。宴、華が高崎にいって以降、扱っていない。持ち区の対応にならざるをえない。持ち区となると足ロス。運転再開に時間を要する。現車を触っておくべき。

会社：引き続き初動対応、応急処置の一翼を担えるよう情報を取りながら訓練に参加できるように考えていきたい。

組合：教育で心配している理由は、具体的事象として日光線２０５でモーターが焼けてしまい構内で搬送台車を組み立てた事象があった。振り返りの際、「現場で搬送台車の組み立てに時間かかった」とそこに問題があるかのように言われた。実際には搬送台車の組み立てはやったことがない人が対応した。支社は認識していたのか。現場は必死に対応して「遅い」と言われては冗談ではない。教育の体制をしっかりしていただきたい。

会社：支社内に「なんで」と状況がわからない方もいる。車両課としては時間を要することは理解しているし最善の対応していただいていると考えている。ただ現場で努力したところにそのような声が届いてしまうのはどうか思う。車両課として関わっていく。搬送台車の訓練は行っている。様々な事象があるので関係箇所で連携を密にしていく。訓練計画も来年度に向けて早期復旧やスキルアップを目指して取り組みたい。

水戸線の交直車両の異常時対応に関してはこれまでと変わらないことを確認！
今後の訓練計画で教育の充実を求め、認識を一致！

４．廃止に伴う今後のスケジュールを明らかにすること。また、異動の際は本人希望を尊重し、貴重な人材を離職によって失わないようにすること。

◆会社回答： 関係箇所と調整し実施していく考えである。なお、社員の運用については就業規則に則り取り扱っていく。

組合：3.14 以降、設備等も残っており、整理する時間が必要と考えるがどうか。

会社：3.14 以降、すぐなくなるわけではない。部品もある。個人のものもある。ＪＥＴＳ小山に連絡とりながら連携して整理していく。時間軸は合わせながらやっていく。

組合：「更なる推進」施策で技術継承を担ってきた。出向者の中にはＪＲの本体復帰を希望している若年出向者もいる。自分のせいでエルダーの職場を提供できないとなってほしくない。ＪＲ復帰も検討を。

会社：若年出向中の方々についても今まで通り丁寧に把握していく。任用の基準あるので具体的には控える。

廃止に伴う異動だけでなく、若年出向者の方々の本体復帰の希望もしっかり把握することを確認しました！